

第2回『雪の総合的な学習』研究会 を開催

- 附属教育実践総合センター・附属札幌小学校 -

附属教育実践総合センターと附属札幌小学校が中心となって、雪を核とした総合的な学習の実践を4年ほど前から進めています。その一環として、道内教育現場の先生方や雪の研究者、本学教員からなる研究会「北海道雪プロジェクト（雪プロ）」を立ち上げ、総合学習サポートページ「北海道雪たんけん館」（<http://yukipro.sap.hokkyodai.ac.jp>）の制作・運営に当たっています。身近な雪を多様な側面から取り上げ、子どもたちの目線に立った表現で実際に教室で使える内容の提供を第一に考えています。全国からたくさんのアクセスと質問を受け、好評を頂いております。

このホームページを授業で実際に役立てて頂き、雪の総合的な学習を全道の教育現場で展開していくためには、学校教育現場での利用方法の検討・意見交換を行い、全道レベルのネットワークを築くことが不可欠であります。そこで、雪の総合的な学習を共に考え、実践していく研究会を企画しました。2回目となる今年度は1月30日（金）に附属札幌小学校を会場として開催しました。

午前は附属小学校が先進的に展開する冬の総合カリキュラムの実際を紹介するために、公開授業を行いました：「雪まつりへGo!」（6年）、「冬と生き物」（4年）。6年生は雪まつり雪像コンクールに参加している外国人と交流するために、自分たちの生活を服装を例に考えてみようというものでした。4年生は、近くを流れる茨戸川に住む生物について、その生態や食と命の関係などを考え

ていくものでした。風邪による学級閉鎖のため、授業公開を5年生から6年生に急遽変更となりました。身近なテーマであるだけに反応も良く、子どもたちの輝きが印象に残る授業でした。

午後は、村山学長と辻井校長にご挨拶を頂いた後、雪プロで活動して頂いている小学校の先生方や開拓の村学芸員による「すぐに使える授業ネタ」提案及び附属小の探求型総合カリキュラムの概要説明、授業者からの授業意図の説明を行いました。授業ネタ提案のテーマは昔の暮らし（造材と森林伐採）、除雪、地域との関わり（根室）、雪の観察、冬の料理、北海道の冬を紹介する英語表現など多岐に亘っており、ホームページを活用して、雪を様々な角度から取り上げうることを参加者に御理解頂いたものと思います。最後に、ゲストとしてお招きしたIT教育をリードする堀田龍也氏（静岡大学）に「IT活用授業最前線」と題して講演頂きました。2005年度には各教室にコンピュータや高速インターネット回線が整備されることになっています。デジタルコンテンツを活用したわかりやすい一斉授業をどのように進めたらよいかをわかりやすく解説して頂きました。

参加者は161名（札幌市外109名）で、全道58市町村からご参集頂きました。総合的な学習の時間の一層の充実が求められています。教育実践総合センターと附属札幌小学校が中心となって、本事業をさらに発展させていきたいと考えています。

（高橋 庸哉）



公開授業の様子



雪プロメンバーによる授業ネタ提案